

「小さな自然再生」事例集制作座談会

小さな自然再生が中小河川を救う！
更なる推進に向けた方策を探る

「小さな自然再生」に関わる関係省庁の施策との共通項や関連性を見出し、身近な水辺での自然再生活動への市民参加の更なる推進に向けた方策を導き出すことを趣旨として、座談会を開催しました。

【開催日時】

2014年11月26日(水) 10:00～12:00

【開催場所】

(公財)リバーフロント研究所会議室(東京都中央区)

座長



玉井 行
東京大学名誉教授、JRRN/
ARRN 顧問、事例集監修



鳥居 敏
環境省自然環境局
自然環境計画課 課長



中村 圭吾
国土交通省国土技術政策
総合研究所河川研究部
河川研究室 主任研究官



岩瀬 晴夫
(株)北海道技術コンサルタント
川づくり計画 室長
事例集編集委員



浜野 龍夫
徳島大学大学院 教授
事例集編集委員

これまでの取り組みを振り返って

玉井 まずはこれまでの小さな自然再生の取り組みを振り返ってみようということで、実際に経験してきた方々にご意見を頂きたいと思いますが、岩瀬さん、いかがでしょうか。

岩瀬 編集委員会の三橋委員より冒頭の事例集紹介の中でお話がありました。当初はアナキー的をやってきたという点は私も同じです。河川は自由使用ですが、侵食や氾濫などを起こす河積阻害にならないよう心掛してきました。1990年代に多自然型川づくりが始まった頃、具体的な川づくり技術をもっていないことを自覚したのが発端です。どのように課題を解決できるかを考えた時、頭では知識があるのでできそうだと考えていたのですが、実際に何かやろうとすると唖然として、できない自分がそこにはいました。自分ではやるしかないということから始まりま

した。その当時は行政側も試行錯誤だったので、河川管理者に迷惑を掛けない範囲でゲリラ的、アナキー的に実施してみることから始めました。ものをつくる場合、壊れる、壊れないは大切です。私たちコンサルタントは壊れないものを設計することは得意ですが、壊れないものは結局コンクリートになってしまふという経験があり、それでは多自然川づくりの考えには合わないもので、そこにある材料で何とかしてとみるということになりました。そこにある材料とは石と木しかないわけですが、それは、どんなに工夫しても壊れやすく、壊れる具合を見ながら、さあどうしようというのが次のステップになりました。これが今後の課題になるのですが、そうして私的な、アナキーな段階を経て、今日に至っています。やはり河川の自由使用の範囲を上手く活用しつつ、河川管理者の許可を得るステップの段階にシフトしなければい

印象をもっています。
玉井 自分ではやらないと多自然の現は不可能だという考えから、小さな自然再生という方向に向かったということですね。浜野さんはいかがですか。

浜野 私の場合は、これまでカウンターパートとして県や市町村の方と一緒に取り組んできたため、先ほど岩瀬さんが言われていたコンクリートという声が出るのも事実です。以前に山口県で魚道を出るの事実ですが、100年壊れず持ちこたえているコンクリートの魚道などないことを知り、コンクリートも意味がないなと感じたり、一方でコンクリートは扱いやすいものなのも感じました。コンクリートを使いながら魚道改善を県の方と一緒に取り組みましたが、当時を振り返って良かったと思うのが、カウンターパートに恵まれたことです。「水辺の小さな」という手引きを(当時)山口県河川課

の伊藤信行さんと作りましたが、山口県では早いうちからスイスに近自然川づくりを視察に行かれており、その視察の様子を正確にレクチャー頂く中で、これは日本では難しいなあという印象を持ちました。加えて、これからは益々洪水が多くなることが予測されている中で、自然再生には十分な予算が回らないことも直感的に感じ、魚道は見栄えではなく、生き物にとって安全で確実なことが大切であるとの考えに至りました。陸上から見ると心地よい魚道は人間の都合であり、水の中からは生き物が見た時に安全確保、陸上で言う高速道路のように、危険な場所は確実に早く進むことができる様な、本当の意味での河川のネットワークを造ることが先決であるという思いに伊藤さんも共感頂き、山口県での取り組みが始まりました。山口県は二級河川が多く、河川管理者と一緒に取り組んでよかったことは、治水に対しては私が責任を取らなくてよく、その部分は河川管理者が一緒に考えてくれるのですが、こういうものも使えるの専門としてはありますが、こういうものも使えるのとは、河川管理者として良いものを作るという考え、この前例として良いものを作るという考え、室内で実験するよりも現場で実践することに方向転換してきました。県の方と一緒に取り組むことで、私自身も共に学びながら人が育つということがあったかと思えます。

玉井 協働が大切であり、また適切な組み合わせ、分業体制でそれぞれの得意分野を持

ち寄ったということですかね。ただ、その時に境界領域、すなわち各専門分野の間の部分を如何に埋めるか、両者が自分の専門の外に出て境界のところを埋めていくことが大切だと思いますが、その辺りの秘訣の様なものはありますか？

浜野 飲み会なんかいいですね(笑)。川でエビやアユを捕って皆で焼いて食べるなど、しんどいと一緒に経験して愛は育まれるではありませんが、こうした経験で信頼関係が構築され、後々の取り組みがスムーズに進んだりします。それと、上意下達で「これをやれ」と担当させられるのは面白くないですね。地域の方々からご相談を受けた時は、これまでの経験から、活動を通じて人を育てる、河川管理者の中に人を育てる意識でやりましようとお話しさせて頂きます。

玉井 共通の時間が大切であり、また楽しくないと効果が出ないということですかね。ところで、浜野さんからお話のありました前例主義について、行政の中の研究者という立場ですが、中村さんはいかがですか。

中村 前例主義は確かにあると思います。前例がないとなかなか先に進まないということ、今回作成中の事例集も重要だと思えます。加えて、ある程度の技術的、学術的な知見をしっかりと押さえておくことも必要ですが、自然再生に関わる現場レベルの研究論文はまだ少なく、事例集の様子が普及することは大切です。技術的根拠がある程度押さえられていることが事例の普及に際しては必要で、そうすれば行政側も安心して判断して先に進められると思います。

玉井 その辺りについて、環境行政に携わる鳥居さんからお話いただけますか。
鳥居 小さな自然再生という取り組みを全国



用しながら小さな自然再生を具体的に実現するアイデアや具体的事例が各地で出てくれば、新しい展開が出てくると思います。先の議論にもありまして、やはり事例の蓄積は重要と認識しており、国土交通省で河川維持管理研究会という勉強会を都道府県と開催しており、その中で環境保全班というグループを昨年度から立ち上げ、維持管理を通じてどうやって河川環境を改善していくかについても考えております。中小河川で新たな環境改善の取組みをする機会に限られてはいますが、その限られた中でもちょっとした工夫で環境がよくなるのではないかと、あるいは県が行う維持管理に市民も参加頂き、維持管理に合わせた小さな自然再生の様な取組みも行う仕組みができないかなど、各県で工夫している事例を参考に、維持管理に併せて環境をよくした事例の取集を現在進めているところで。

五井 小さな自然再生に取組む上で河川協働力制度が活用できるということですね。また災害復旧の話もありました。災害復旧で問題になっていたのは、短時間で復旧しなければならず、いわゆる標準的な設計に準じて工事しなければいけないためにあまり多様なことまでできないことがありましたか、その辺りは考え方が変わりつつあるのでしょうか。

中村 2005年に多自然川づくりアドバイザー制度ができて、全体の5%ぐらいに相当する大規模な災害復旧ではアドバイザーが選定され、災害復旧といえども環境に配慮した事業が併せて行われてきました。例えば「多自然川づくりポイントブックⅢ」で紹介されている優良事例の多くはこの災害復旧における取組みなのです。災害復旧であっても頑張れば自然環境により川づくりはでき

るということですが、一方で残りの比較的規模の小さい河川の災害復旧についても改善したいということで、今年度に災害復旧の基本方針を変え、その基本方針をもとに、防災課が環境に対して厳しくチェックをする体制が現在は構築されております。

五井 原形復旧だけでなく、改良復旧が認められたというのがありますね。その中には、環境面をよりよくするという、それも河川の改良の一ということかと思えます。そうすると、中小河川でもそういう形の協働の可能性はあるということでしょうか。

中村 そうです。まさに多自然川づくりアドバイザーが関わるのは改良復旧事例が多いです。環境に配慮する仕組みはできつつありますので、そういった制度と、本日議論している小さな自然再生をリンクさせることが大切だと思います。現状で、災害復旧自体と小さな自然再生と直接リンクする仕組みは特にありませんので、それはある意味、現場レベルで工夫することになります。

五井 そのですね。現場にて、環境面でこういうことをやりたい、またどうやればいいのかと前例を探中で、既にそうした活動している団体があれば、そこを連携するようなことが実際に始まれば行動できるということですね。

中村 そのですね。多分、事前準備として、ある程度良好な関係性で議論ができていれば、そういうのに合わせて可能かと思えます。**五井** 鳥居さん、環境省では施策面での関連についても少し具体的にお願います。**鳥居** 環境省が率先して小さな自然再生を実行していくというよりはむしろ、ボトムアップ型で取組むのが小さな自然再生の趣旨ですから、それをいかに支援していくのかが

重要で、我々に求められていることと理解しています。そういう意味で、先ほど申しましたように自然再生基本方針を改定して小さな自然再生を盛り込ませて頂きましたが、それだけでなく今後どう広げていけばいいか、どういう支援をしていけばいいかということが我々には求められています。先ほど浜野さんから自治体の河川管理者の方にも理解して頂くことが小さな自然再生を進めていく上で重要であるというお話がありました。自治体に対する環境省からの働きかけとして、「是非こういう仕組みを自治体としても応援して下さい」といった呼びかけをしていくことが大切だと思います。また、自治体だけでなく企業も色々と関わり方も、できるだけ上から、企業も含めいろんな人に個方支援を働きかけていくことが重要と思っています。

五井 行政上の管轄が違うと風通しが良くないということですが、自治体への働きかけを通じて環境局も建設局や道路行政の局と一緒に、ある希少な生き物や景観を

鳥居 確かに、ある希少な生き物や景観を保全するという切り口としてはあります。今回の自然再生基本方針改正の中で、自然再生の役割が地域コミュニティの再生、地域づくりにもなっていくという観点より強化させて頂きました。つまり小さな自然再生を通じて、人と人とのつながりを強化していくということ、自然再生というみんなで一つの目標に向かって取り組んでいくことが地域づくりにもなっていくということより強くなり、そのことによって、自治体に参加する際にも、すべての部署が関わるインセンティブになるのではないかと考えています。**五井** 事例集の留意点では「小さな自然再

生を地域施策の一部としていく」とありますが、こういう方向性が自然再生基本方針にも含まれてきているということですね。その観点から、是非この表現も事例集に盛り込んだほうが良いというようなご意見はありますか。

鳥居 「自然再生には地域づくりが入っています」という、そういう視点ももう少しと入れ込めるといいかなとは思いますが、地方再生が話題になっていますが、小さいところからはじめることで、再生の色々な作業にも参加してもらうことでつながりが発生し、そこで交流が生まれて活性化していくということもあると思いますので、非常に社会的影響もあるのではないのでしょうか。そういう点にスポットを当てれば、色々なところからさらに小さな自然再生への支援の手が伸びてきたりすると思います。

五井 事例集の中では地域づくりの観点というのをもう少し明確に打ち出して、ある程度具体的な内容も紹介していければいいですね。維持管理に限らず、もっと子供たちの問題や地域の問題にも展開していきますという姿勢を出せばよいのではないのでしょうか。

今後の更なる推進に向けて

五井 では、時間も限られておりますので、小さな自然再生の今後の更なる推進に向けた議論に進めたいと思います。

浜野 おそらく、こうした事例集が出てきたから、これからどんどん定年した人たちがたくさん出てくると思います。それぞれ

の専門知識を活かしながら、地域で活躍する方々です。私の経験から言わせて頂ければ、本当にこんな楽しい仕事はないと思えます。で、調整事以外はずっと・・・(笑)。今後は非用意しておきたいことは、小さな自然再生に関わるワンストップの窓口が欲しいということ。今から小さな自然再生を新たにやろうとした時に、どこに連絡したらいいのか、最初の窓口がどこのかが判りません。そうしたワンストップ窓口を、急に振ってしまっても申し訳ありませんが、JRRNの様な団体にできませんかね(笑)。例えば、農業水路などで小さな自然再生に取り組みたい場合など、その水路を誰が管理しているかはあまり考えずに、ここで何かをしたいとお願いをする最初の窓口がどこかに欲しいというのが正直なところですね。

中村 全く浜野さんのご意見に同感ですね。事例集の留意点の最初の部分で「川や水路の管理者は誰か」という記載があります。小さな自然再生を楽しんだりやりたい人が最初にこれを見たら気が滅入りする気がする(笑)。浜野さんがおっしゃられたとおり、何かやりたいと思った時に、ここに聞けばよいというのが直ぐに分かればよいですね。

浜野 小さな自然再生のフリーダイヤル〇〇番みたいなものがあるだけでいいのですけどね(笑)。例えばその窓口から、地域で活動している方々をご紹介していただくのもいいとは思いますが、おそらく事例集を出す、次にはそうしたニーズが必ず起きるだろうと思います。

中村 国土交通省では、各地方整備局に地域河川課というのがありまして、そこが相談のワンストップ窓口になることも、一つオプショナルとしてあるかもしれません。



